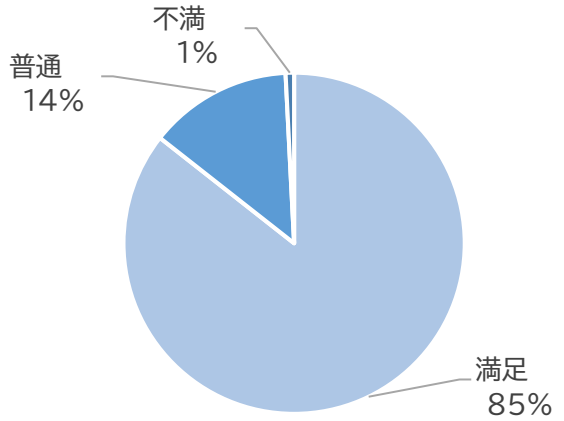
令和5年度　多職種連携のためのステップアップ講座
「死を前にした人にあなたは何ができますか？～ユニバーサル・ホスピスマインドをすべての人生のそばに～」
アンケート結果（ホームページ公開用）

開催日：令和５年９月１３日（水）14：00～16：00（オンライン）

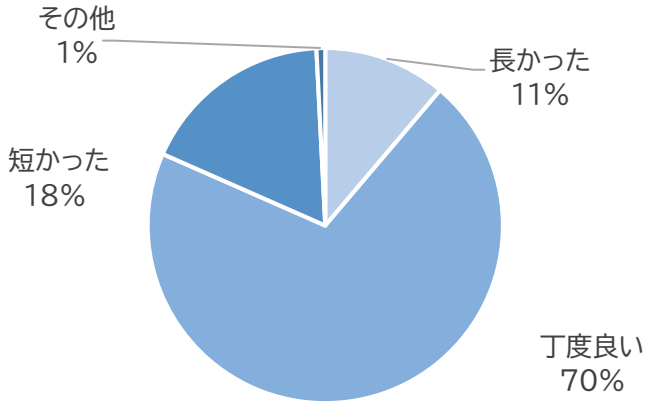
参加者数：２０８名

回答者数：１２５名

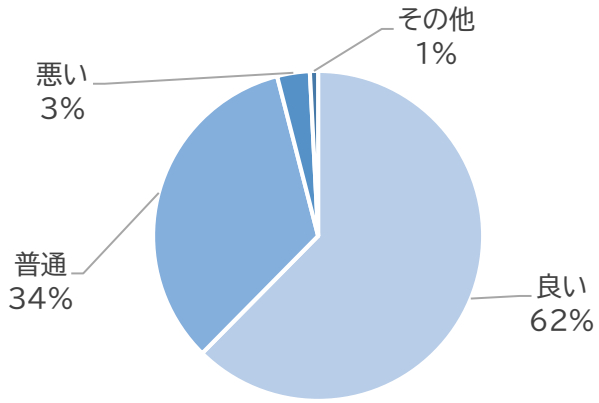
①今回の講座の満足度について



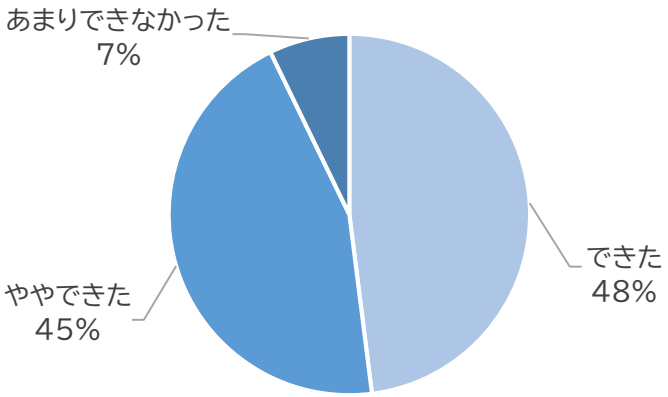
②講座の時間設定について



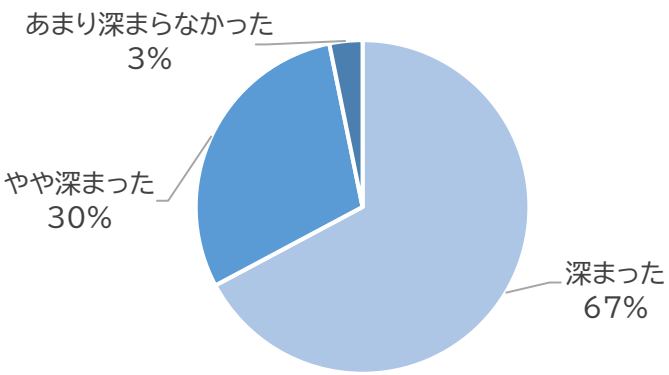
③受講環境・受講方法について



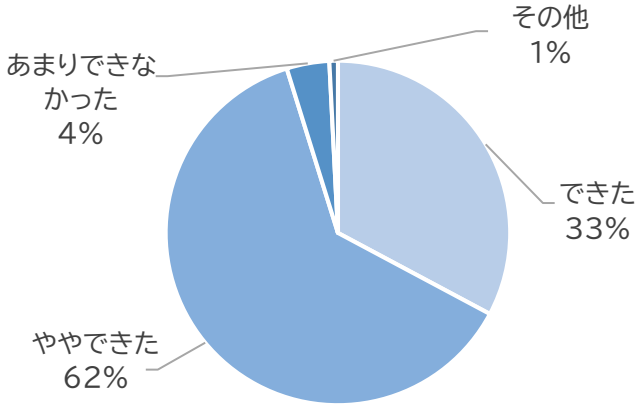
④受講前に感じていた課題や学びたいことを解決できたか



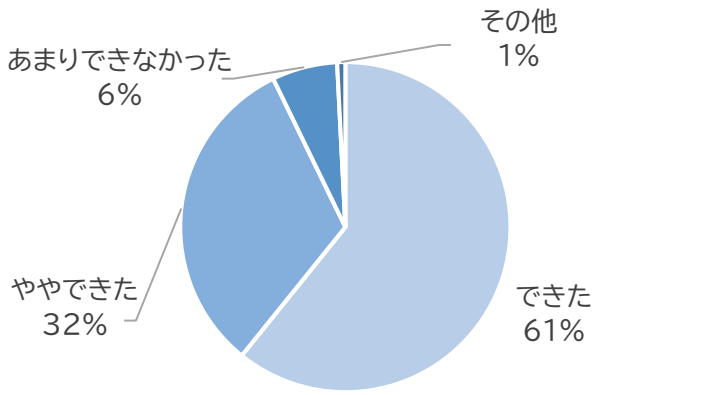
⑤人生の最終段階における医療・ケアに関する学びが深まったか



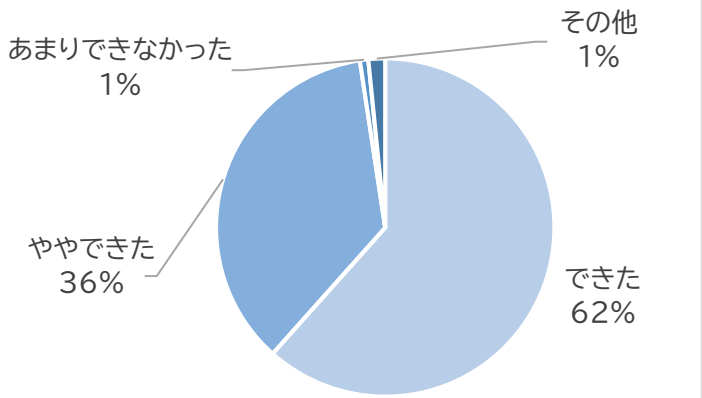
⑥専門性を活かした人生の最終段階における医療ケアが行えると感じたか



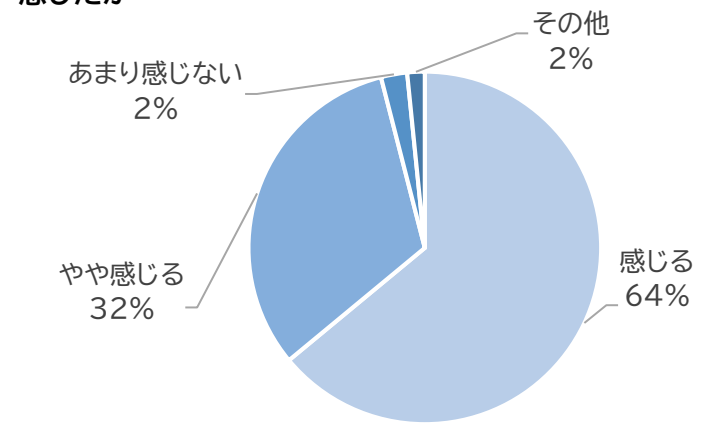
⑦多職種と連携し支援を行う必要性を理解できたか



⑧本人家族の想いを実現する方法について理解できたか



⑨今後の業務に活かすことができると感じたか



⑩　⑨で「1 感じる」「2 やや感じる」と回答した方はどのように活かすことができるか

・患者、家族が訴えようとすることを先走って口に出してしまう癖がある為、それを自覚して気をつけているつもりだが、改めてじっくり「聴く」に徹したいと思った。

・その人の人生や思いを知ろうとすること、傾聴の姿勢では、静かに聴く、繰り返す、その人の反応を見る、受け止める、家族の方や関係者で共有することが大切だと思った。

・元気なうちにどこまで治療するのか確認しておくだけでなく、その時期の関わり方や声かけの仕方、家族への声かけの仕方などが参考になった。

・自分が何をしてあげたいか、何ができるのかを考えるのではなく、穏やかに過ごすためには何が必要かと考え方を変えることができた。

・大変な事だが、相手の苦しみに気づく感性を磨いていこうと思った。本人や家族が笑顔になる事を考えていこうと思う。後悔しない人生を送ってほしい事を伝えていきたい。

（※一部抜粋）

⑩　⑨で「3あまり感じない」「4感じない」と回答した方は理由を記載してください

・実践につなげるには何度かロールプレイ等が必要かと感じたため。

・講義の内容に具体性がなく、zoomという環境もあり実践的な内容など行えなかったため。

（※一部抜粋）

⑪　人生の最終段階における医療・ケアを行う中で課題と感じることは何か、詳細を記載してください

・本人の希望を優先したいが、家族の思いも無視できないこと。
・最終段階においても、本人や家族、1人1人希望が必ずあると思う。しかし、絶望して希望を見い出せない方も多い。そのなかで希望を引き出し実現できる事が課題と感じる。
・在宅での看取り体制がより充実してほしいと思うが、家族の不安と負担が大きくどうしたら少しでも安心できる環境と思えるのかが難しい。
・本人の意向が確認できないときや、本人に告知されてないときに「最期」を話題にすることが難しいと感じる。
・本人と家族の希望、本当の思いをどれだけ限られた時間（余命、急性期病院で許される在院日数など）の中で聴けているのか、寄り添って叶えられているのか、常に惑い自信が持てずにいること。
・1人1人が終活に向けて考えたり、人生の最終段階でどのように過ごしたいのか？などを考えておくことの大切さをもっと広く大勢の方々に普及していくことが重要だと感じる。
・ターミナルから担当した場合本人の話を聞く事ができない。特に家族がいない場合。
・独居の方の自宅での看取り。
・多職種でも、皆が同じ気持ちをもち、相手に接することができること。
・医療と介護の連携を迅速に行うこと。
・スタッフ、医療介護従事者の高齢化。
（※一部抜粋）

⑫　その他講座に参加したご意見・ご感想

・重い演題でしたが、明るく楽しい先生のお話に引き込まれた。現場でのお話やエピソード、心に残った看取りの事例などをもっとお伺いしたかった。
・利用者様やご家族にとって自分が理解者となり、わかってくれる人がいるから安心と思ってもらえる存在になりたい。どんな状況でも穏やかな状況を作るためにどうしたら良いか日々考えてみる機会になった。
・「本人の思いに寄り添いましょう」、「否定しないことが大切」と言われるが、実際はとても難しいことだと感じていた。講義を聞いて、実際に言ってみたことで少しできそうだと思った。実践してみたいと思う。
・在宅側だけでなく、病院側の参加も必要だと思う。
・内容的にはオンラインよりも対面の方が良いと感じた。
・ワークがあるのであれば、集合型が良かったのではないかと感じた。
（※一部抜粋）